

令和三年

年頭のあいさつ



今年の一字を揮こうされたのは

川人 進さん (41歳)

滝川西高等学校で教諭として書道を担当。昨年は日展で入選を果たすなど、書家としても活躍されている。

「転禍為福」 新たな転換の年へ

滝川市長 前田 康吉

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては例年とは異なる思いや形で新年を迎えられたのではないのでしょうか。

一昨年の12月に新型コロナウイルスによる肺炎患者の発生が報告されて以来、その流行は瞬く間に世界中を恐怖に陥れました。この感染が、医療崩壊や社会経済への混乱を招くなか、新型コロナウイルス対策のために昼夜を問わず懸命に戦っていただいている医療関係者をはじめ、私たちの生活を支えていただいている全ての方々に心からの敬意と感謝を申し上げます。

滝川市においては、昨年2月末に初めて感染者が確認されて以降、大きな拡がりはありませんでしたが、11月に入り全国的な感染拡大とともに、市内においても再び感染者が確認され、民間病院や一部の事業所ではクラスターも発生しました。市民の皆様も心配されたことと思いますが、関係各位にしっかりと

対応いただいたことで大きな混乱はなかったと感じています。

昨年は多くのイベントや行事が中止・延期となり、本当に寂しい年でありました。特に開村130年を祝うさまざまな催しも縮小せざるを得ず、市民の皆様と共に祝う機会を持てなかったことは誠に残念であります。

このような中ではありましたが、移転新築で整備を進めていた二の坂保育所が完成し、4月から子どもたちが元気に通園しています。また12月には農村環境改善センターが江部乙地区コミュニティセンターと統合し、多くの市民の皆様にご利用いただける新たな交流・集いの場としてリニューアルしました。

そして、本年は新しい火葬場の完成とともに、要望の多かった合同墓の建設に向けても準備を進めています。滝の川運動公園では、テニスコートの改修もいよいよであります。

コロナ禍の中であっても行政は立ち止まりません。その歩み

を着実に進めています。新型コロナウイルスの影響が長期化する中で世の中は一変しましたが、この変化をどのように街の良さとへと転換していくのが重要です。この先も新たな感染症の発生は十分考えられ、「ポストコロナ」「ウィズコロナ」の流れの中、適応することにとどまらず、コロナ禍を越えた世界をつくりが必要で。

私は令和3年の一字を「転」としました。禍転じて福と為すべく、職員が丸となつて新しい視点を持ち、いま流行の言葉で言いますと「全集中の呼吸」で精一杯市政発展のために取り組んでまいります。

新しいワクチンや有効な治療薬の開発も進み、世界もまた混乱の時代から転換のときを迎えています。市民の皆様におかれましては、これまで同様の感染防止対策を励行し、健やかな年となりますよう心からご祈念申し上げます。

※「転禍為福」…禍や不幸などの悪い状況を上手く利用して、良い状況に変えること。

希望「雲外蒼天」

滝川市議会議長

関藤 龍也

新年あけましておめでとうございます。

滝川市議会を代表して、まずは新型コロナウイルス感染症に罹患された方、感染拡大により生活に影響を受けている皆様様に心よりお見舞い申し上げます。また、市民のために日夜活動が続けられている医療従事者の方々に、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、本市は人口4万人を割り込み厳しい経済状況が進む中、コロナ禍のダメージを受け、先行きに大きな不安を抱える一年となりました。

国・北海道・市町村そして医学界においても決定的な打開策を見いだせない中で、私たちは新たな生活スタイルを模索しながら我慢を強いられて生活しなければなりません。家族の安全と周りの方を思いやる気持ちを持って感染予防対策をしつかりとさせていただき、共に将来への希望を持ち「雲外蒼天」の精神で頑張り抜いていきたいと

思います。

こうした不安を抱える一方、滝川市にとつて喜ばしいことは「ふるさと納税」の大幅な伸びが期待されることです。昨年度は約10億4,600万円でありましたが、今年度は15億円ほどまで伸びる見込みで、これはひとえに当市を応援いただいた寄付者の皆様はもとより、魅力ある返礼品の開発にご尽力いただいた関係事業者様のお力によるもので、この財源の活用により市民サービスが一層向上するものと期待しております。

さて、世界に目を向けると、数十年後の日本の人口は8千万人程度まで減少し、それに反比例し世界の人口は約10億人まで増加すると言われています。このような中で日本の生産年齢人口は減少し、海外からの労働者に頼らざるを得なくなると思います。滝川市においても中空知の中心市として経済の維持、発展のために社会構造の変化に対応していかなければなら

ません。私としては、外国人の就労に関するさまざまな規制を緩和し、外国人も働きやすい環境を滝川市を含むこの地域に実現させていきたいと考えております。

また、滝川市議会議長として昨年いくつかの議会改革を進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、迅速な感染対策と市民に的確な関連情報などを伝えるため、先に新型コロナウイルス感染症等対策特別委員会を設置しました。今年はさらに市民に開かれた議会を目指し、新たな議会改革を進めようと考えております。

結びになりますが、議員一同活力ある議会運営と市政発展に意を尽くしてまいりますので、さらなるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息し、市民の皆様方が再び安心した生活を送れることを願い、年頭のご挨拶とさせていただきます。



▲川人先生から書を学ばれている滝川西高等学校の書道部の皆さんとともに、川人先生を囲んで。